

時

代が大きく変化をしても変わらないことがあります。それは「経営者は会社の顔であり、会社イメージは経営者次第で良いも悪いも大きく左右される」という事実。特にいまはSNSが発達し個人がメディアになりましたので、経営者の発する言葉や書くメッセージがダイレクトに消費者に届き、ファン作りができるカアンチを生み出すかも経営者の生きざま次第と言えます。どんな装いをするのか？ も会社イメージを正しく伝えるための手段の一つ。纏う服＝メッセージそのものなのです。そもそも服とは自分の世界観を標榜するものであり、自分が何者であるかもっともわかりやすく伝えることができるメディアとも言えますので、服本来の持つ意味合いがコロナを通して鮮明になつてきたとも言えます。だからよりストーリー立てて自分の見せかたを考えていく必要があります。

経営者が「会社の顔としての服選び」をする上では「いま似合うのか？」は考える必要はありません。とは言え今が最高の状態で、これ以上望むことのない状態なら「いま似合う服」を選んでもいいのですが、会社をこれからもっと発展させたい方は、その視座は今すぐ捨ててください。代わりに考えるのは「会社が理想の状態になつたときに自分が何を着ているか？」 在りたい自分であればどんな服を着ているか？」服選びは事業計画と同じ、将来の理想の姿を明確にイメージし現時点との差を埋めていくように、将来の在りたい姿をまずは明確にイメージしてみるのです。世のなかに似合わない服は存在しません。あるのは着慣れない服・見慣れない服です。似合うかどうかというのは過去の経験の刷

り込みなので、非常に感覚的なもの。また、ある人から見たら似合う、違う人から見たら似合わない。そんなことが普通におこる極めて曖昧な基準です。今まで選んでこなかった服のなかに「在りたい自分に相応しい服」がある可能性も十分にあるのです。だから似合う似合わない、好き嫌いはいったんゼロセツトしましょう。

とはいえ… 在りたい自分に似合う服なんて考えたことないですよ。そこでオススメの方法があるのでですが「もし自分の人生が映画になったら誰に演じてもらいたいのか？」を想像してください！ なにかワクワクしませんか?! どんな俳優（女優）が主役で、どんな服装をしていて、どんな言葉づかいで話しているのか？ クライマックスはどんなシーンで、見ている人にどんなことを感じてほしいのか？ そんなことを想像すればするほど、自分のことではなくなつていきます。正しくいえば、そう考えると客観的に自分をみるのが出来るのです。客観的に考えたほうが役割にふさわしい装いを考えることが出来ます。自分主体で考えると、好き嫌いや似合う似合わない、ラクがどうか？ というところで考えてしまいますが、客観性を持つことで自分の思考は自然となくなり、なにが理想の自分に相応しいのか？ を考えることができるのです。主役は誰が演じている？ どんな人生？ は人それぞれですが、人生の主役は誰か？ といえば自分自身。だから誰に演じてほしいのかは、自分で決めたらいいのです。それがたとえば渡辺謙さんだとします。そこでもっと具体的にするために次に考えることは、

「インセプション」の渡辺謙さんなのか？
「TOKYO VOICE」の渡辺謙さんなのか？

「明日の記憶」の渡辺謙さんなのか？
「はやぶさ」の渡辺謙さんなのか？

監督はその役柄にふさわしいセリフを考え、衣装さんはその役柄にふさわしい衣装を用意します。その指示にしたがい俳優さんはまったくの別人格になります。役柄によつて着ている服もちがえば、話すコトバもまるでちがうのです。自分の人生を演じてもらうなら、どの作品のときのどの俳優さんなのか？ を考えてみるのです。そして俳優さんも作品もなんとなくイメージできたら、どんな服をきていて、どんなセリフで話しているのか？ などを実際にみて服えらびの参考にしてみてください。

そうすると服の選び方に革命が起こり、服を選ぶ時間が自分の理想の人生をつくるためのクリエイティブな時間になつていくのです。似合うかどうかなんて全く考える必要はありません。なぜならその誰がいいのか？ を考える時点で、とんでもなく違う人は考えません。たとえば私が自分の人生が映画になつた時の主役を竹内力さんとは思わないように、憧れている人とか好きな人を選ぶもの。再現ドラマにでてくる人が、なんとなく似ている人を使っているように、親和性の高い方を自然と想像するはずです。

ファッションとはオシャレのためにするもの、と長い間思われてきました。しかしビジネスファッションは違います。ビジネスファッションの持つ本当の力は「なりたい自分になれる魔法のツール」。だから服選びの常識とされていたことを捨て、理想の自分ならどんな服を着ているだろうか？ と想像力を膨らませ、まるで未来予想図を描くように、自分の見栄えをワクワクしながら創りあげ、未来を自分で切り開いていきましょう！